

2026年度

児童文化功労賞・協会賞・新人賞

贈呈式次第

日時 2026年5月26日（火）午後3時～
会場 出版クラブホール

贈呈式

- ・ 開式
- ・ 理事長挨拶
- ・ 各賞選考経過報告
- ・ 賞状・記念品贈呈および挨拶
 - 児童文芸新人賞
 - 日本児童文芸家協会賞
 - 児童文化功労賞
- ・ 受賞出版社賞状贈呈および挨拶
 - 児童文芸新人賞
 - 日本児童文芸家協会賞
- ・ 祝電・花束贈呈
- ・ 閉式

懇親会

- ・ 開会
- ・ 乾杯
 - (懇談)
- ・ 閉会

一般社団法人 日本児童文芸家協会

〒102-0072 東京都千代田区飯田橋2-16-3
金子ビル202

TEL 03-3262-6026

FAX 03-3262-8739

メール info@jidoubungei.jp

ホームページ <https://www.jidoubungei.jp>

第 65 回児童文化功労賞

- ◆児童文化の向上発展のために長年努力された方々の功績を称えて表彰する賞で、1959（昭和 34）年、初代会長浜田広介氏らの提唱により発足、今年度の 65 回まで、342 名を顕彰している。

読書のアニメーション研究会（どくしょのあにましおんけんきゅうかい）

【略歴】

1997 年に出版された『読書で遊ぼうアニメーション 本が大好きになる 25 のゲーム』（モンセラット・サルト著、柏書房）に岩辺泰史前代表が執筆したことをきっかけに発足。アニメーションとは、読書を含め、文化、スポーツ等にいざなうために「たのしいひととき」をつくり出す社会文化運動。読書のアニメーション研究会は、アニメーションの手法を読書や子どもの世界に応用しようと、参加型読書による本の世界へのいざない活動を進めてきた。また、教員や司書が毎月、月例会を開き、学校や図書館で使えるアニメーションを開発し、普及させてきた。隔月発行している機関紙『ファンタジスタ！』は 134 号になる。北海道、青森、鹿児島、徳島、沖縄にも支部があり、その地域の特色を生かした活動をしている。『はじめてのアニメーション 1 冊の本が宝島』（柏書房）、『子どもの心に本をとどける 30 のアニメーション』『楽しむ うたがう 議論する アニメーションで道徳』（共にかもがわ出版）等の書籍も出版。

★読書のアニメーション研究会 代表 笠井英彦

★所在地 静岡県静岡市駿河区稲川 1 丁目 6-7

第50回日本児童文芸家協会賞

『スマイルカットでみんな笑顔に！ 発達障がいの子どもによりそう美容師さん』
(佼成出版社) 別司 芳子 (べっし よしこ)

【選考委員】石崎洋司 おおぎやなぎちか 杉本深由起 高橋うらら 戸田和代 横田明子

◆本賞は2024年12月1日から2025年11月30日までに出版(奥付)された協会正会員の全ジャンルの作品の中から最優秀と認められた著作に贈られるが、すでに本賞を受賞した著者の作品は除外する。

【選評】

「スマイルカット」を通して、障がいのある子は、「困った子」ではなく、「困っている子」であることを伝えようとする美容師さんの姿を、筆者が心を込めて書こうとする姿勢が真摯に感じられた。ただし、子どもの読者には少々読みづらい表現の箇所が散見される、大人の視点が入っている、という指摘があったのは、惜しまれるところである。

今回は、一次選考の時点から、選考委員が全員一致で推せる作品が無かった中で、貴重な題材を扱い、テーマ性に富み、ノンフィクションの持つ強さが感じられる本作を協会賞にふさわしいと結論づけた。

【略歴】

福井県生まれ。『でこぼこ凸凹あいうえお』(刊行時『凸凹あいうえおの手紙』くもん出版)で小川未明文学賞優秀賞、『ひだまりの家』でさきがけ文学賞選奨を受賞。

主な著書に、ノンフィクション『髪がつなぐ物語』(文研出版、JBBY選)、『宇宙食になったサバ缶』(共著/小学館、福井市こどもの本大賞)、『元気のゆずりあい 地下室にいた供血犬シロ』(フレール館、福井市こどもの本大賞)。

創作『恐竜博物館のひみつ』『しりとり電車のハイチくん』(共に文研出版)など。読書感想文コンクール課題図書選定作多数。

本賞受賞作『スマイルカットでみんな笑顔に！ 発達障がいの子どもによりそう美容師さん』(佼成出版社)が最新刊となる。

★所属 日本児童文芸家協会、日本児童文学者協会、日本子どもの本研究会、季節風。

★福井県在住。

第 55 回児童文芸新人賞

『思いがけず、朝子ちゃん』（童心社） 高村 有（たかむら ゆう）

【選考委員】新井悦子 井上林子 北川チハル 西村友里 萩原弓佳 宮下恵菜

◆本賞は 2024 年 12 月 1 日から 2025 年 11 月 30 日までに出版（奥付）された、著者の第 2 冊目までの単行本を対象とする。創作物語、伝記、ノンフィクション、詩集、絵本も含まれる。

【選評】

花屋で働く 25 歳の朝子ちゃんと 5 人の小中学生たちの出会いを描いた連作短編集。今を生きる子どもたちが見事に活写されており、新人とは思えない卓越した文章力と構成力も高く評価された。その一方、「花ことば」「曜日」「花」などの要素が多すぎて、詰め込みすぎではないかという指摘もあった。

【略歴】

長野県佐久市出身。明治大学卒業後、ゲームライターや、実用系出版社で編集アシスタントなどを経験する。2018 年～2019 年に日本児童文学者協会主催の創作教室で学び、2021 年に第 3 回フレール館ものがたり新人賞優秀賞、第 10 回ポプラズッコケ文学新人賞編集部賞を受賞。

単著に、『思いがけず、朝子ちゃん』（童心社、J B B Y 選）。共著に、『1 話ごとに近づく恐怖 百物語 3 嘆きの恐怖』（文溪堂）内の「S ビル 301 号」、『もし、自分に負けそうになったら』（偕成社）内の「もし、わたしがもっと踏み出せたら」、『アクション! ふしぎな係活動!! ACTION 1 なぞがうずまく係もある』（岩崎書店）内の「クロノスの砂時計」がある。

★所属 日本児童文芸家協会、サークル・拓、季節風。

★東京都在住。